



漸り快晴る赴き先心  
 盟見西原健勝なり何れ  
 述き唐宗の言を其  
 物績業の徳察の為に西  
 買し酒を好む其を折る  
 和人出る知る遠く西  
 去る帰朝者の前途有る  
 為に其年者の所を官  
 何れ亦道也の何れとは  
 抑有るに及ぶとも生  
この所有る心の記す事を得  
 手に其を得る張る

ふれんぼのしんがく

白くくくくく

照見を好むこと

ならずお人の七日

お記のそと

調子か

お記は新紙

度か

ふれんぼのしんがく

自由の人

社を立つ

のそと

お記

お記

お記

お記

お記

お記

お記

お記

自由他人の事業  
社を主として  
の青年 務めたる  
あるは若くは  
福あるは世に  
とらふは  
何れも  
願ふは  
是れも  
の望あり人  
の一團殊  
深素と  
五月  
十九日

直林

大隈

研光  
北

早稲田  
大隈重信殿  
親展



鐵心

三

鍋田

萬

直

林